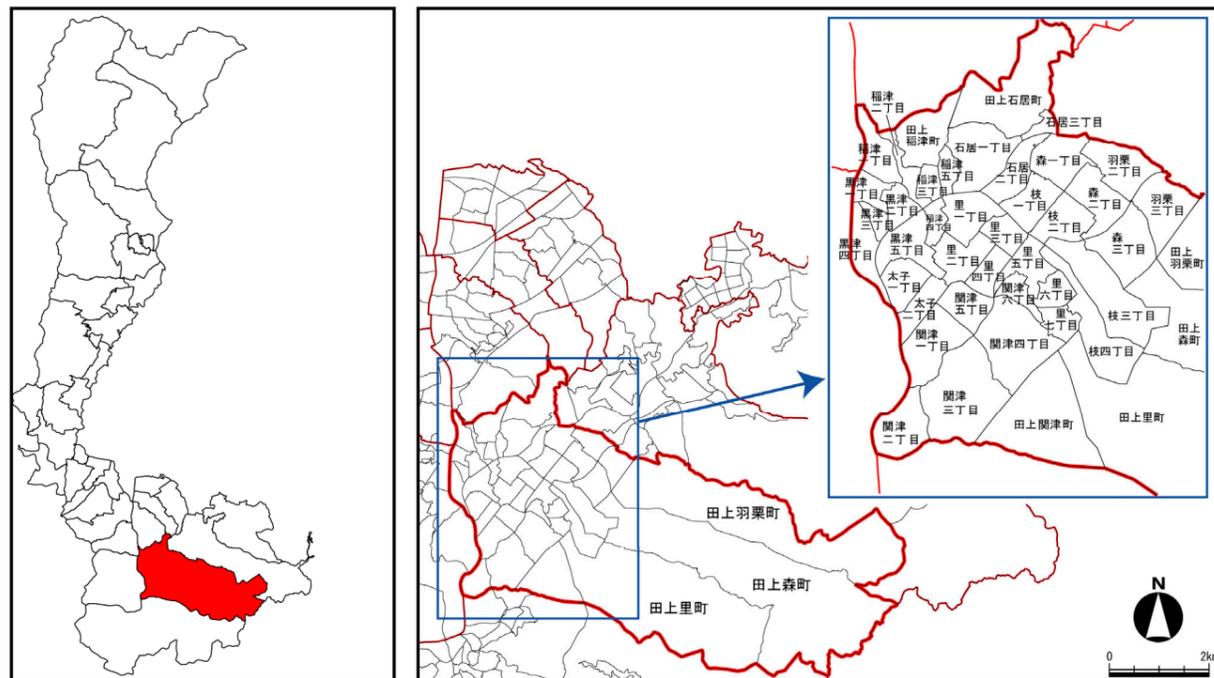


■ 学区の概況



<町丁名>

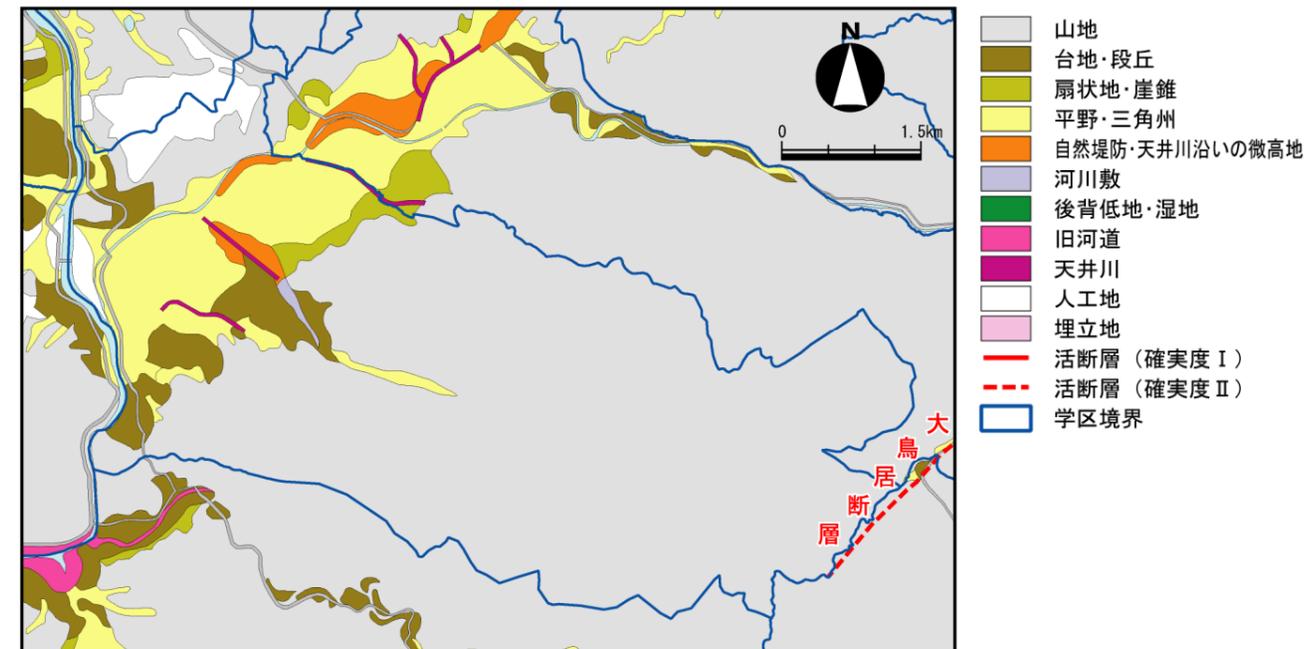
田上石居町、羽栗二丁目、羽栗三丁目、森一丁目、森二丁目、森三丁目、枝一丁目、枝二丁目、枝三丁目、枝四丁目、里一丁目、里二丁目、里三丁目、里四丁目、里五丁目、里六丁目、里七丁目、石居一丁目、石居二丁目、石居三丁目、稲津一丁目、稲津二丁目、稲津三丁目、稲津四丁目、稲津五丁目、黒津一丁目、黒津二丁目、黒津三丁目、黒津四丁目、黒津五丁目、太子一丁目、太子二丁目、関津一丁目、関津二丁目、関津三丁目、関津四丁目、関津五丁目、関津六丁目、田上羽栗町、田上森町、田上里町、田上稲津町、田上関津町

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

南の太神山や堂山などの田上山地と、北の瀬田丘陵に挟まれた地区で、大戸川や天神川流域の平地には、これらの河川の水資源を利用した水田が広がっている。水と緑の自薦豊かな景勝の地である。日本三大鉱物産地のひとつとして有名な田上山は、古代の都造営のための森林伐採の影響ではげ山化した。明治以降、国内外の技術者の努力によって砂防工事が進められている。中でもオランダ人技師デ・レーケは、山から川へ土砂が流れないように石積みの堰堤などを建設したほか、荒廃した田上山に植樹を行い、治山治水の両方向から砂防工事を進め、砂防事業発祥の地と言われている。近年、天神川流域で大規模な住宅開発が進み、人口が増加してきている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

<地形の特徴>

- 田上学区の地形は大部分が山地であり、太神山や堂山などが含まれている。
- 西部には大戸川に沿った比較的広い低地が広がっており山地との境界には丘陵と低位段丘、または山地の間の谷から扇状地が広がっている。
- 北部の瀬田丘陵は傾動地塊であり、大戸川に面した南側斜面は急斜面となっている。
- 田上山は古代の都造営のための森林伐採の影響ではげ山化し、風化した花崗岩が表面に現れ崩壊が数多く発生することで知られている。田上山から流れ出る河川は水と共に多量の土砂を運搬し河床に堆積するため、低地部では天井川となっている。
- 田上学区と上田上学区との間に流れる宮川は、川の下にトンネルを掘って道路が通っている。
- 北西部の田上石居町・田上稲津町付近の人工地はゴルフ場である。また瀬田川沿いの人工地は南郷洗堰など公共施設からなる。

<地質の特徴>

- この地域の山地は田上山花崗岩からなる。田上山花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 山地の前面の丘陵や瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- この地域の南東部には、大鳥居断層が通過している。大鳥居断層は、湖南市三雲から大津市の太神山東方までのびる、長さ約 12.5km の活断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
田上羽栗町	-	-	-	-
田上森町	-	-	-	-
田上里町	-	-	-	-
田上石居町	-	-	-	-
田上稲津町	-	-	-	-
田上関津町	-	-	-	-
羽栗二丁目	31.4	97.0	59.0	26.1
羽栗三丁目	55.0	83.0	77.5	72.2
森一丁目	31.2	97.9	61.5	75.0
森二丁目	43.9	92.9	76.2	51.6
森三丁目	55.0	91.3	84.3	63.4
枝一丁目	51.3	91.6	80.6	71.3
枝二丁目	40.8	89.5	71.4	66.3
枝三丁目	53.2	92.8	82.7	29.7
枝四丁目	53.8	89.0	83.5	12.6
里一丁目	58.6	92.9	79.5	37.6
里二丁目	81.6	99.5	50.0	33.3
里三丁目	58.9	45.4	83.6	42.1
里四丁目	54.1	99.3	40.0	75.0
里五丁目	65.5	72.8	82.3	18.5
里六丁目	56.8	50.1	79.7	9.3
里七丁目	57.1	68.8	71.3	0.0
石居一丁目	62.9	95.3	60.8	63.5
石居二丁目	-	100.0	0.0	0.0
石居三丁目	59.3	67.8	76.1	8.6
稲津一丁目	65.8	68.2	78.7	53.9
稲津二丁目	72.4	59.9	88.3	58.3
稲津三丁目	61.7	59.0	62.8	38.1
稲津四丁目	41.5	98.5	40.0	50.0
稲津五丁目	-	0.0	-	-
黒津一丁目	59.7	79.0	78.9	45.9
黒津二丁目	63.8	57.6	72.7	28.3
黒津三丁目	59.7	46.4	90.0	11.6
黒津四丁目	-	-	31.3	100.0
黒津五丁目	-	-	46.2	8.3
太子一丁目	51.0	93.4	63.2	63.6
太子二丁目	38.9	94.4	66.0	63.6
関津一丁目	51.1	89.6	76.9	63.3
関津二丁目	38.6	95.5	75.0	64.1
関津三丁目	51.9	91.3	77.9	50.0
関津四丁目	-	-	42.2	10.3
関津五丁目	44.6	96.6	76.3	44.8
関津六丁目	77.7	52.6	91.4	3.3
学区平均	59.1	96.3	77.3	36.7
出典	1,2	1,2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 59.1 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha と同程度である。
- 不燃領域率の学区平均は 96.3% で市平均の 93.9% より高い。
- 木造率の学区平均は 77.3% で市平均 72.7% より高い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 36.7% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

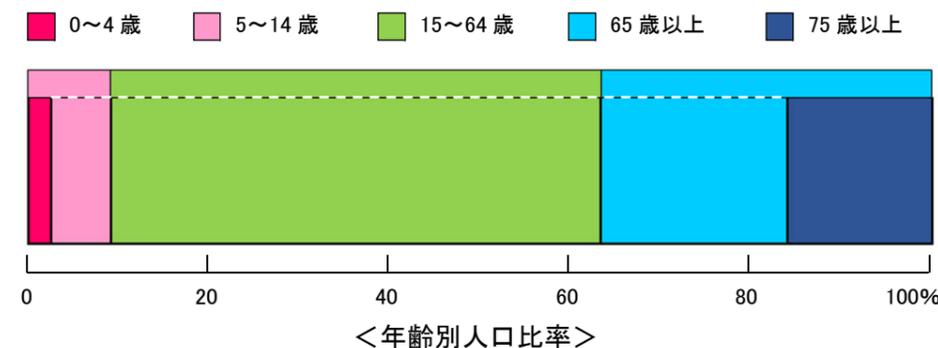
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	9,873	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	246	人	学区人口に対する割合	2.5	1
年齢別 (5~14 歳)	656	人	学区人口に対する割合	6.6	1
年齢別 (15~64 歳)	5,351	人	学区人口に対する割合	54.2	1
年齢別 (65 歳以上)	3,620	人	学区人口に対する割合	36.7	1
年齢別 (75 歳以上)	1,585	人	学区人口に対する割合	16.1	1
世帯数	4,401	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.2	人/世帯		-	2
要介護認定者	603	人	学区人口に対する割合	6.1	3
身体障害者 (要配慮者)	163	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者 (要配慮者)	24	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	104	人	学区人口に対する割合	1.1	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口は学区西部の平野・扇状地・段丘部に集中している。
- 高齢者 (65 歳以上) は 3620 人、乳幼児 (0~4 歳) は 246 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 36.7%、2.5% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 603 人 (6.1%)、身体障害者 (要配慮者) は 163 人 (1.7%)、知的障害者 (要配慮者) は 24 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 104 人 (1.1%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	27 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	45 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	45 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	72 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	5 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	3 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	135,075 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	138,752 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	463,420 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	2,405,846 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	17 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 琵琶湖浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB. S. L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、大戸川浸水想定区域は、概ね100年に1回程度の大雨（黒津地点上流域の9時間雨量157mm）の場合を想定しているため、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 東南部は山地で、災害危険箇所に指定されているエリアは少ないが、その山地と大戸川の流れにより形成された平野部の境界は、土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。
- 豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性がある。
- 大戸川については、豪雨などの場合は外水氾濫に注意が必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	田上小学校グラウンド	○	○	○		里五丁目 8-1
	田上幼稚園グラウンド	○	○	○		関津六丁目 19-8
	湖南台地東児童公園		○	○		稲津三丁目 6
	稲津南児童公園	○	○	○		稲津一丁目 14
	湖南台地西児童公園	○	○	○		稲津三丁目 18
	田上公園多目的グラウンド	○	○	○		枝三丁目 1
	南郷水産センター駐車場	○		○		黒津四丁目 3
	指定緊急避難場所 兼 指定避難所	田上市民センター	○		○	
田上小学校体育館	○	○	○		里五丁目 8-1	
田上幼稚園	○	○	○		関津六丁目 19-8	
田上児童館	○	○	○		稲津一丁目 14-30	
南ふれあいセンター	○	○			稲津一丁目 10-20	
田上市民体育館	○	○			稲津一丁目 10-18	
指定避難所	(福) 田上児童クラブ			—		関津六丁目 19-1
	(福) 水のめぐみ館			—		黒津四丁目 2-2

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
田上市民センター	里三丁目 9-1	546-0001

<警察 110>

名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
田上駐在所	里五丁目 7-7	546-0075

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
東消防署	大江四丁目 18-1	543-0119
田上分団	里五丁目 7-50	546-2146



